

2022年6月21日

京都府知事

西脇 隆俊 様

新型コロナウイルスワクチンの円滑な接種体制のための要請

京都府保険医協会
理事長 鈴木 卓

【要請項目】

1. 接種実施現場において、やむを得ない場合はワクチンの廃棄を認めることを府が率先して実施主体である各市町村に伝えていただきたい
2. 医療現場で接種しやすい環境を整えるために、せめてインフルエンザワクチンのように1バイアル2人分とするなど、1バイアルあたりの接種人数を見直す、針付きプレフィルドシリンジの採用を検討する、薬液をシリンジへ移してからの品質保持期間の延長など、今後に向けて柔軟な対応および企業努力を製薬会社に求めるよう国に要請いただきたい

【要請内容】

貴職におかれましては、平素より府民の生命と健康を守り、また今般の新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、日夜ご尽力いただいておりますことに心より御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスワクチンの接種事業では、実施主体である市町村とともに各医療機関において、日夜懸命な努力が重ねられています。

これまで新型コロナウイルスワクチン接種事業においては、繰り返し薬液の廃棄はしないよう求められてきましたが、3回目接種に至っては接種希望者が伸び悩み、個別接種を行う医療機関においては、希望者の急なキャンセルや体調不良などで、接種人数の確保が難しい場面が増えてきています。この点に関して、京都市においてはワクチンを廃棄しないことよりひとりでも多くの方にワクチンを接種することが肝要と考え、ワクチン接種協力医療機関に対して、やむを得ない廃棄はあり得ると伝えたと聞いております。

つきましては、この件に関し、実施主体である各市町村の方針になろうかとは思いますが、府がリーダーシップを発揮し、やむを得ない場合は現場の判断においてワクチンの廃棄を可能とするなど、各医療機関におけるワクチン管理の裁量を認めていただき、各市町村にその旨を通知するよう要望します。

また、先述したように、3回目接種希望者が伸び悩み、加えて各社ワクチンの1バイアルの接種人数の多さや薬液をシリンジへ移してからの品質保持期間の短さから、医療機関における予約調整や接種人数確保に多大な労力を要するようになっていきます。

これから実施される4回目接種に至っては、現時点で対象者が限られており、個別接種を行う医療機関に更なる負担を課すこととなります。加えて、4月に薬事承認されたノババ

ックスにおいても、1バイアル10人分となっており、どのワクチンにおいても個別接種においては接種人数の多さが円滑な接種事業の妨げになるのではと危惧しています。

つきましては、せめてインフルエンザワクチンのように1バイアル2人分とするなど、各製薬会社におけるワクチンの1バイアルあたりの接種人数を見直し薬液の充填量を変更する、針付きプレフィルドシリンジの採用を検討する、薬液をシリンジへ移してからの品質保持期間についても更なる企業努力を求めるなど、今後に向けて柔軟な対応を検討していただきたいと考え、国から製薬会社へ要請を行うよう求めることを要望します。